

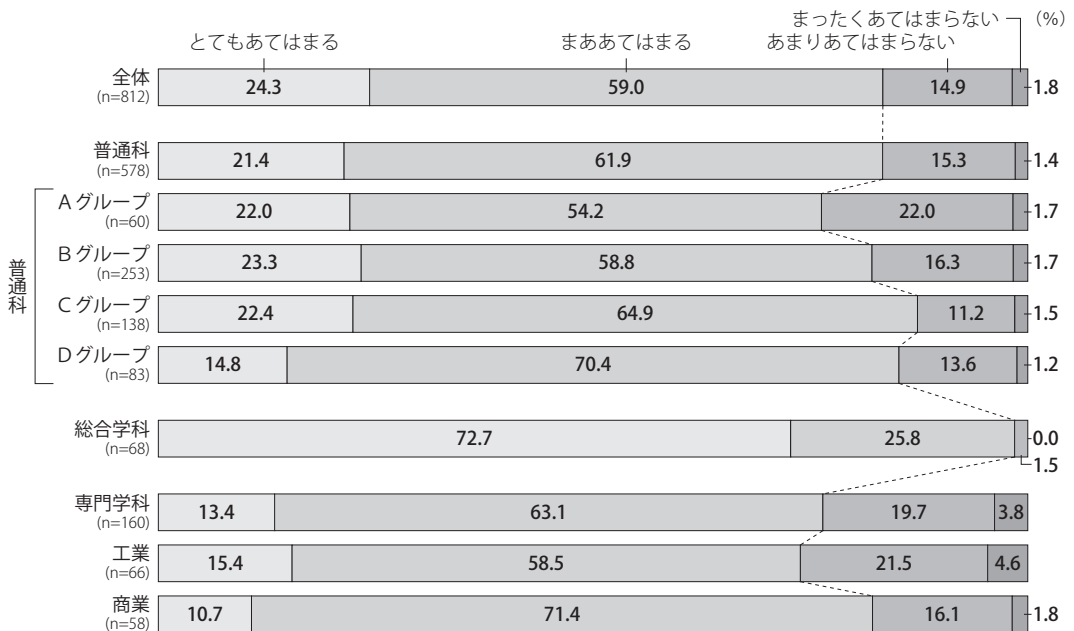
## 第2章

## 学校の特徴と教育課程の編成

## 第1節 カリキュラム編成の特徴

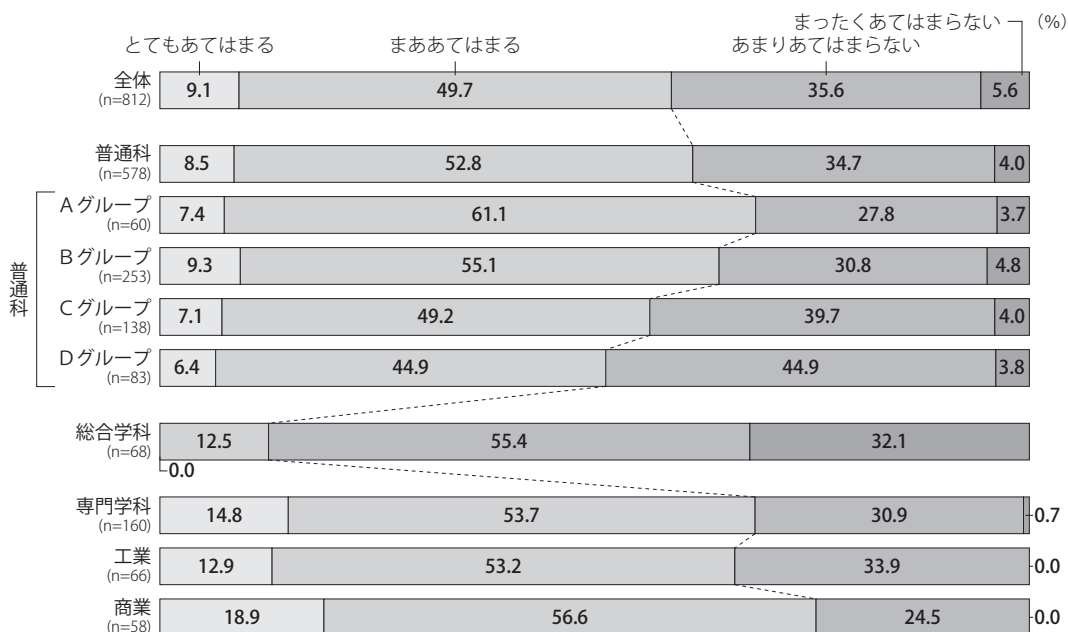
83.3%の学校が「生徒一人ひとりの学習実態や進路に対応できる柔軟なカリキュラムを編成している」（「とてもあてはまる」「まああてはまる」の合計、以下同）。「生徒全員にできるだけ共通した学習内容を学ばせるカリキュラムを編成している」と回答した比率は58.8%であった。総合学科では、98.5%が「生徒一人ひとりの学習実態や進路に対応できる柔軟なカリキュラムを編成している」と回答したのに対して、「生徒全員にできるだけ共通した学習内容を学ばせるカリキュラムを編成している」と回答した比率は12.5%にとどまった。

図2-1-1 生徒一人ひとりの学習実態や進路に対応できる柔軟なカリキュラムを編成している【校長調査】



注) 「無回答・不明」を除いて算出した。

図 2-1-2 生徒全員にできるだけ共通した学習内容を学ばせるカリキュラムを編成している  
【校長調査】



注) 「無回答・不明」を除いて算出した。

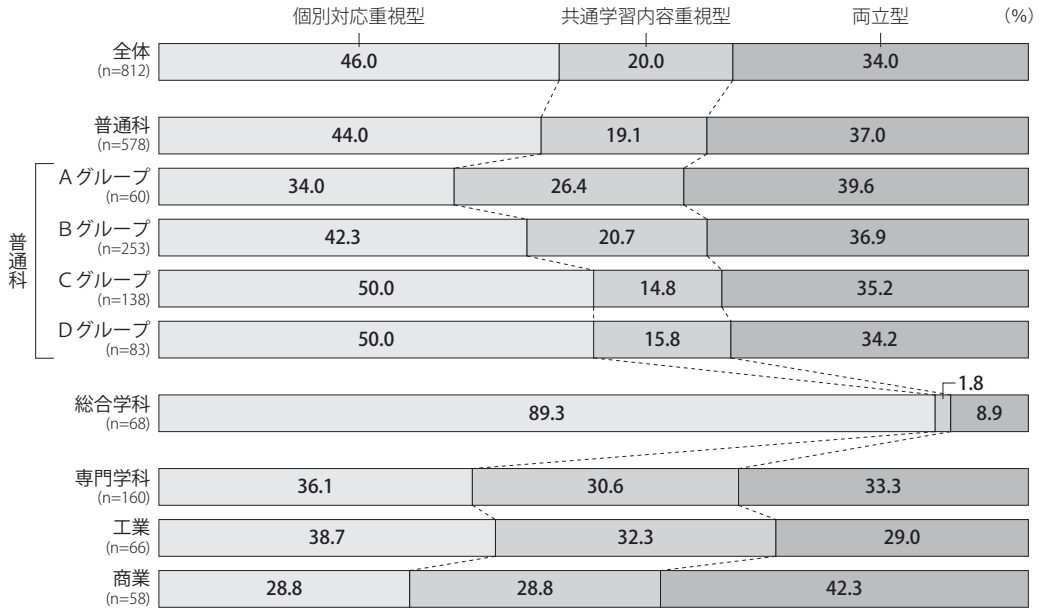
学校レベルのカリキュラム編成の特徴を校長にたずねたところ、「生徒一人ひとりの学習実態や進路に対応できる柔軟なカリキュラムを編成している」と回答した比率（「とてもあてはまる」「まああてはまる」の合計、以下同）は83.3%であった（図2-1-1）。学校種別に見てみると、肯定率がもっとも高かったのは総合学科で98.5%、つづいて、普通科Cグループ（87.3%）や普通科Dグループ（85.2%）が8割5分強と高かった。

次に、「生徒全員にできるだけ共通した学習内容を学ばせるカリキュラムを編成している」

と回答した比率についてみると、全体平均では58.8%であった（図2-1-2）。学校種別に肯定率をみると、普通科Aグループ（68.5%）や専門学科（68.5%〔商業では75.5%〕）で高くなっている。なお、普通科については、普通科Aグループ>Bグループ>Cグループ>Dグループの順に肯定率が低くなることが確認できる。総合学科では、同設問に対して否定する比率（「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」の合計）が87.5%と高い。

# I 生徒・学校の特徴と教育課程の編成

図2-1-3 カリキュラム編成の特徴3分類【校長調査】



注1) 学校レベルのカリキュラム編成の特徴について校長にたずねた2つの設問(「生徒一人ひとりの学習実態や進路に対応できる柔軟なカリキュラムを編成している」および「生徒全員にできるだけ共通した学習内容を学ばせるカリキュラムを編成している」)を用いて、学校レベルのカリキュラム編成の特徴を3つのグループに類型化した。具体的には、2つの設問とも否定(「あまりあてはまらない」または「まったくあてはまらない」)を選択した層をサンプル数が少ないため除いたうえで、前者の設問に対する肯定度(「とてもあてはまる」: 4点、「まああてはまる」: 3点、「あまりあてはまらない」: 2点、「まったくあてはまらない」: 1点、以下同)が後者の設問に対する肯定度を上回ったものを「個別対応重視型」、後者の設問に対する肯定度が前者の設問に対する肯定度を上回ったものを「共通学習内容重視型」、前者の設問と後者の設問の肯定度が一致したものを「両立型」とした。

注2) 「無回答・不明」を除いて算出した。

図2-1-3は、前述のカリキュラム編成に関する設問の回答を用いて、学校レベルのカリキュラム編成の特徴を3つのグループに類型化したものである(類型化の手順については、図2-1-3の注記を参照)。これをみると、全体の46.0%が「個別対応重視型」、20.0%が「共通学習内容重視型」、34.0%が「両立型」であることがわかる。普通科についてみると、「個別対応重視型」の比率は、普通科Aグループ(34.0%) < Bグループ(42.3%) < Cグループ(50.0%) = Dグループ(50.0%)となっており、普通科C・Dグループでは半数を占める。一方、「共通学習内容重視型」の比率は、普通

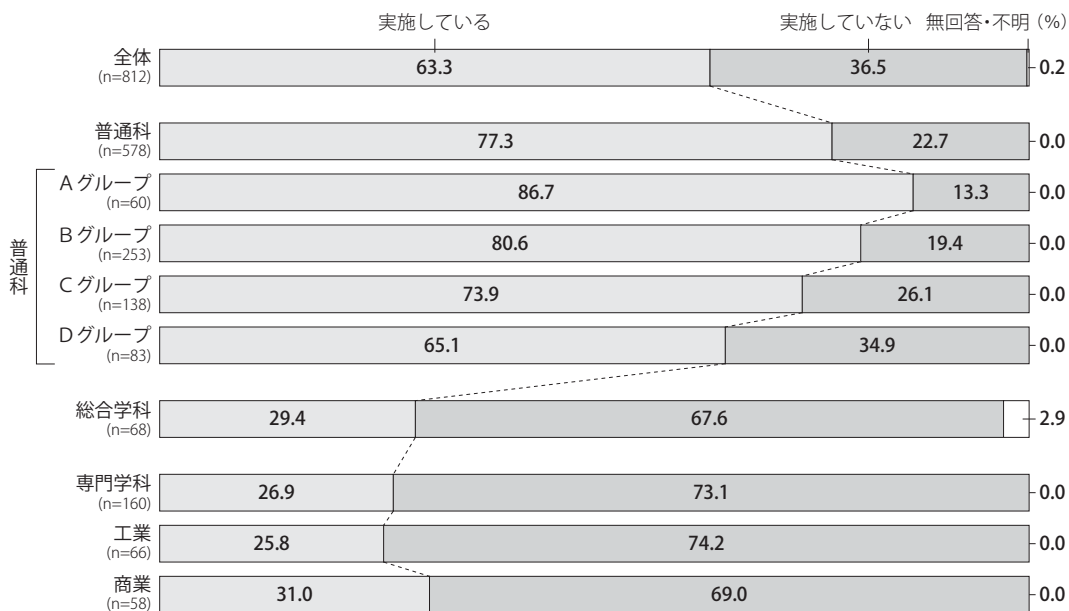
科Aグループ(26.4%) > Bグループ(20.7%) > Cグループ(14.8%) = Dグループ(15.8%)となっており、普通科Aグループでは4校に1校が「共通学習内容重視型」に該当するものの、普通科C・Dグループでは「個別対応重視型」や「両立型」の比率が相対的に高い。総合学科では89.3%が「個別対応重視型」で、「共通学習内容重視型」は1.8%にとどまる。専門学科では「個別対応重視型」「共通学習内容重視型」「両立型」がそれぞれ3分の1ずつであった。ただし、商業においては「両立型」の比率が42.3%と高くなっている。

## 第2節 進路別のコース分けの実態

### 2-1 進路別のコース分けの実施の有無

63.3%の高校が進路別のコース分けを「実施している」と回答。学校種別に進路別のコース分けを「実施している」比率をみると、普通科Aグループで86.7%と最も高くなっている。総合学科の実施率は29.4%、専門学科は26.9%であった。

図2-2-1 進路別のコース分けの実施の有無【校長調査】



募集定員数をもっとも多い学科で進路別のコース分けをしているか否かをたずねたところ、全体の63.3%が進路別のコース分けを「実施している」と回答した(図2-2-1)。学科別にみると、普通科(77.3%)>総合学科(29.4%)≒専門学科(26.9%)となっていることから、全体的に普通科を中心に進路別のコース分けを実施していることがわかる。なお、

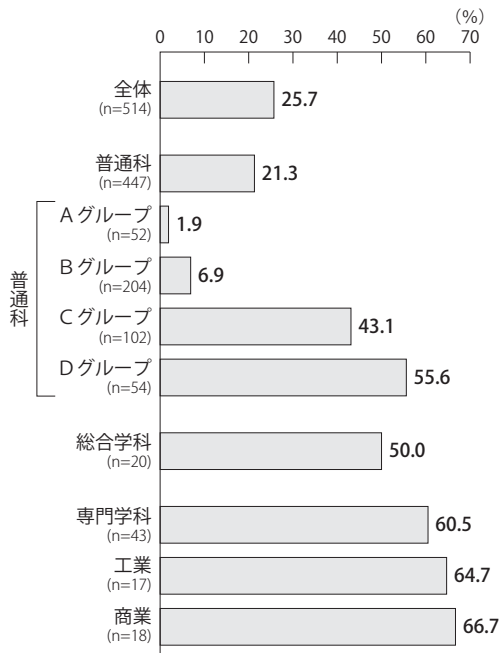
普通科のなかで学校種別にみると、普通科Aグループ(86.7%)>Bグループ(80.6%)>Cグループ(73.9%)>Dグループ(65.1%)となっていることから、同じ普通科のなかでも、生徒の中学校時代の成績(評定平均)が高い高校ほど進路別のコース分けを実施していることがわかる。

# I 生徒・学校の特徴と教育課程の編成

## 2-2 進学者／就職者向けコース

「進学者／就職者向けコース」分けを実施しているのは、進路別のコース分けを実施している高校の25.7%。普通科Dグループ、総合学科、専門学科における実施率が5～6割と高い。開始学年は「2年生」と回答した比率が68.9%と最も高かった。

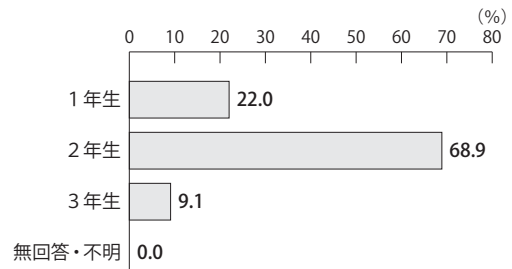
図2-2-2 進学者／就職者向けコース分けの実施率【校長調査】



注) 進路別のコース分けを実施していると回答した校長 (n=514) のみ分析。

進路別のコース分けを実施している高校のうち、「進学者／就職者向けコース」分けをしている比率は25.7%であった(図2-2-2)。これを学校種別にみても、普通科Cグループで43.1%、普通科Dグループ、総合学科、専門学科では5～6割と高くなっている。卒業

図2-2-3 進学者／就職者向けコース分けの開始学年【校長調査】(全体)



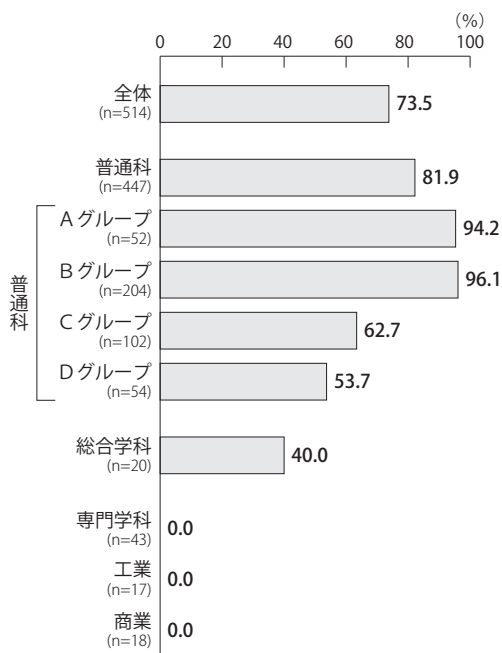
注) 進学者／就職者向けコース分けを実施していると回答した校長 (n=132) のみ分析。

後に就職する者の比率が相対的に高いグループで、進学者向けと就職者向けのコースを設置している高校が多いと考えられる。実施学年をみると、「2年生」と回答した比率が68.9%と最も高く、次に「1年生」(22.0%)が続いた(図2-2-3)。

## 2-3 文系／理系コース

「文系／理系コース」分けを実施しているのは、進路別のコース分けを実施している高校の73.5%。普通科 A・B グループでは9割5分前後が実施している。開始学年は「2年生」と回答した比率が86.0%と最も高かった。

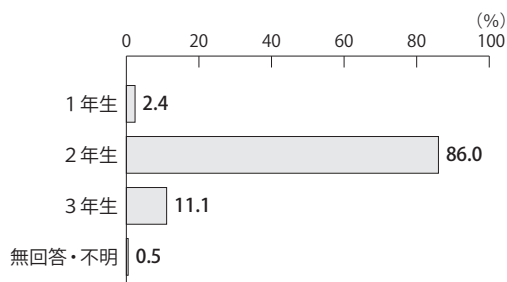
図2-2-4 文系／理系コース分けの実施率【校長調査】



注) 進路別のコース分けを実施していると回答した校長 (n=514) のみ分析。

進路別のコース分けを実施している高校のうち、「文系／理系コース」分けをしている比率は73.5%であった(図2-2-4)。これを学校種別に見てみると、普通科 A・B グループでは9割5分前後とかなり高くなっている。「文系／理系コース」分けは、生徒の中学校時代の

図2-2-5 文系／理系コース分けの開始学年【校長調査】(全体)



注) 文系／理系コース分けを実施していると回答した校長 (n=378) のみ分析。

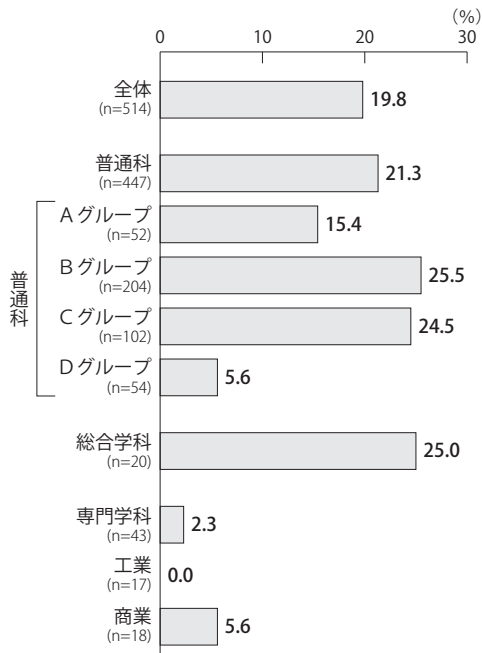
成績(評定平均)が相対的に高い高校を中心に設置されている進路別のコース分けと考えられる。開始学年をみてみると、「2年生」と回答した比率が最も高く86.0%であった。「3年生」と回答した比率は11.1%であった(図2-2-5)。

# I 生徒・学校の特徴と教育課程の編成

## 2-4 国公立大学進学／私立大学進学コース

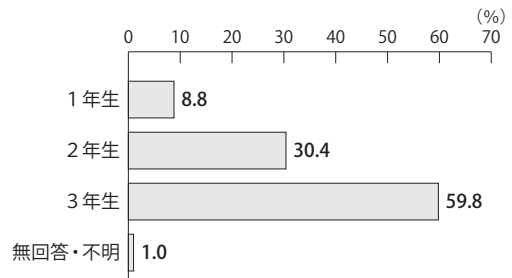
「国公立大学進学／私立大学進学コース」分けを実施しているのは、進路別のコース分けを実施している高校の19.8%。普通科B・Cグループ、総合学科では、それぞれの2割5分前後が実施している。開始学年は「3年生」と回答した比率がもっとも高く59.8%であった。

図2-2-6 国公立大学進学／私立大学進学コース分けの実施率【校長調査】



注) 進路別のコース分けを実施していると回答した校長 (n=514) のみ分析。

図2-2-7 国公立大学進学／私立大学進学コース分けの開始学年【校長調査】(全体)



注) 国公立大学進学／私立大学進学コース分けを実施していると回答した校長 (n=102) のみ分析。

進路別のコース分けを実施している高校のうち、「国公立大学進学／私立大学進学コース」分けをしている比率は19.8%であった(図2-2-6)。学校種別にみても、普通科B・Cグループ、総合学科において、それぞれの2割5分前後が「国公立大学進学／私立大学進学

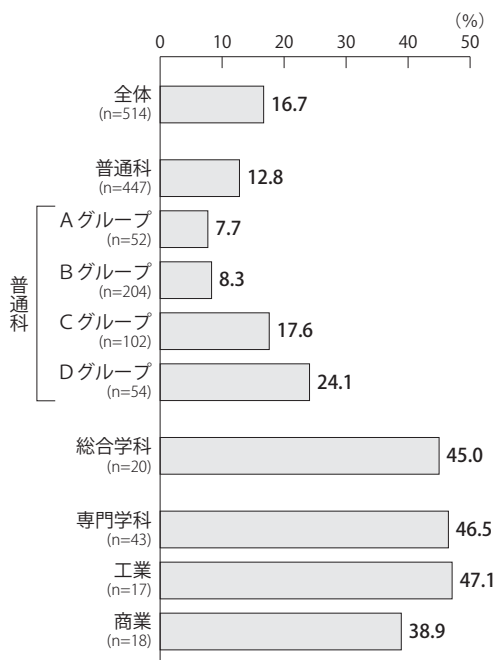
コース」分けを実施していることがわかる。開始学年をみると、「3年生」と回答した比率がもっとも高く59.8%であった。「2年生」と回答した比率は30.4%、「1年生」の比率は8.8%であった(図2-2-7)。

## 2-5 その他\*の進路別のコース分け

\*「進学者／就職者向けコース」「文系／理系コース」「国公立大学進学／私立大学進学コース」のいずれにも該当しないコース分けを指す。例えば、専門領域別コースや習熟度別コースなど、さまざまなコース分けがここに含まれる。

「進学者／就職者向けコース」「文系／理系コース」「国公立大学進学／私立大学進学コース」のいずれにも該当しないコース分けを実施しているのは、進路別のコース分けを実施している高校の16.7%。総合学科、専門学科での実施率が4割5分前後と高い。

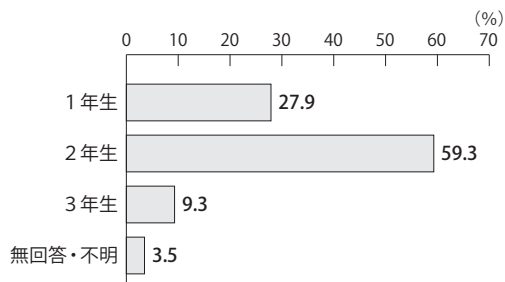
図2-2-8 その他のコース分けの実施率  
【校長調査】



注) 進路別のコース分けを実施していると回答した校長 (n=514) のみ分析。

進路別のコース分けを実施している高校のうち、「進学者／就職者向けコース」「文系／理系コース」「国公立大学進学／私立大学進学コース」のいずれにも該当しないコース分けを実施している比率は16.7%であった(図2-2-8)。学校種別にみても、総合学科と専門

図2-2-9 その他のコース分けの開始学年  
【校長調査】(全体)



注) その他のコース分けを実施していると回答した校長 (n=86) のみ分析。

学科の4割5分前後が、前述のような進路別のコース分けを行っていることがわかる。開始学年をみると、「2年生」と回答した比率がもっとも高く59.3%であった。「1年生」と回答した比率は27.9%、「3年生」の比率は9.3%であった(図2-2-9)。

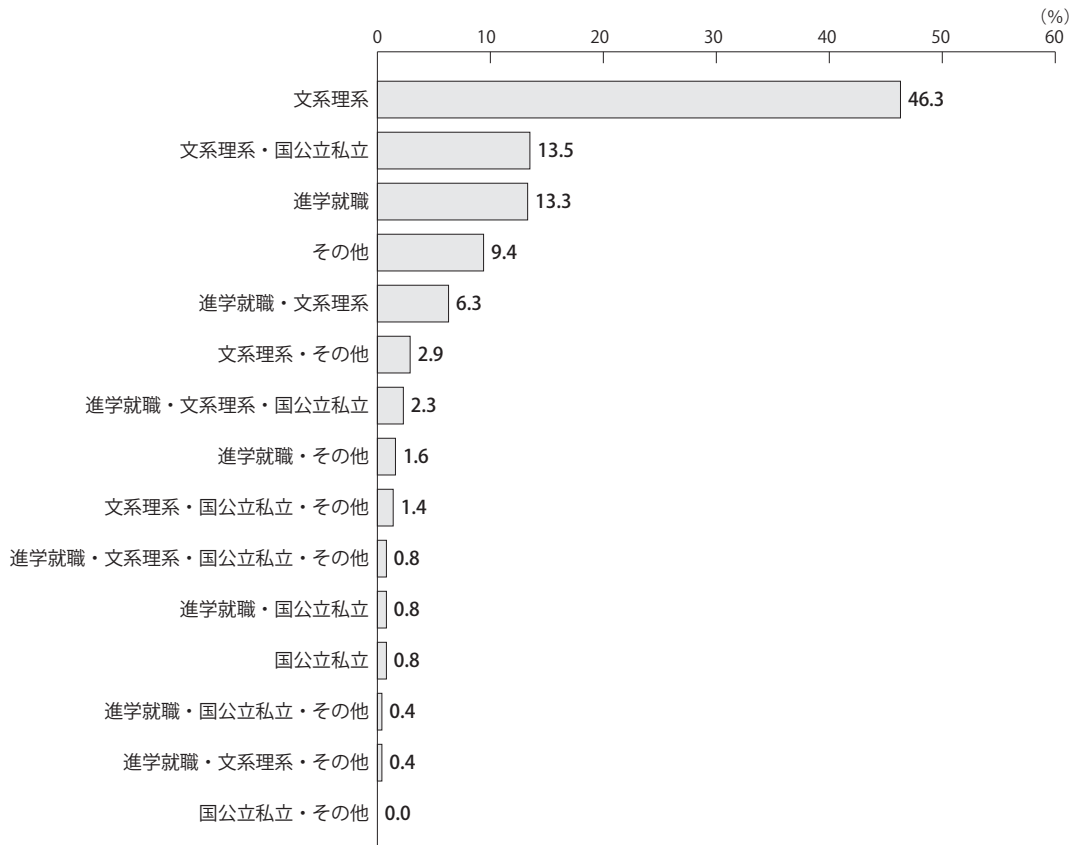


# I 生徒・学校の特徴と教育課程の編成

## 2-6 進路別のコース分けの組み合わせパターン

もっとも多いコース分けの組み合わせパターンは、「文系理系」のみで46.3%であった。2番目に多いのは「文系理系・国公立私立」(13.5%)、3番目は「進学就職」(13.3%)であった。「文系理系」のみのパターンは、普通科Aグループ(76.5%)とBグループ(65.7%)でとくに高くなっている。

図2-2-10 進路別のコース分けの組み合わせパターン【校長調査】(全体)



注1) 進路別のコース分けを実施していると回答した校長 (n=514) のみ分析。

注2) 「進学者/就職者向けコース」を「進学就職」、「文系/理系コース」を「文系理系」、「国公立大学進学/私立大学進学コース」を「国公立私立」と表記している。

注3) 進路別のコース分けパターンが「無回答・不明」なものを除いて算出した。

前述の4つの進路別のコース分けに対して、それぞれの高校がどんな組み合わせパターンのコース分けを行っているかを調べた。その結果、もっとも多い組み合わせパターンは「文系理系」のみで46.3%であった(図2-2-10)。2番

目に多かったのは「文系理系・国公立私立」(13.5%)、3番目に多かったのは「進学就職」(13.3%)であった。それ以外の組み合わせパターンについては1割を切っている。

表 2-2-1 進路別のコース分けの組み合わせパターン【校長調査】

	全体 (n=514)	普通科 (n=447)	Aグループ (n=52)	Bグループ (n=204)	Cグループ (n=102)	Dグループ (n=54)	総合学科 (n=20)	専門学科 (n=43)	工業 (n=17)	商業 (n=18)
文系理系	46.3	52.4	76.5	65.7	28.7	22.2	5.0	0.0	0.0	0.0
文系理系・国公立私立	13.5	15.3	13.7	19.6	13.9	1.9	5.0	0.0	0.0	0.0
進学就職	13.3	9.7	0.0	1.5	21.8	29.6	15.0	51.2	52.9	55.6
その他	9.4	5.2	3.9	1.5	7.9	14.8	40.0	39.5	35.3	33.3
進学就職・文系理系	6.3	6.7	0.0	2.9	9.9	22.2	10.0	0.0	0.0	0.0
文系理系・その他	2.9	3.4	3.9	2.9	4.0	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0
進学就職・文系理系・国公立私立	2.3	1.8	2.0	1.0	5.0	0.0	15.0	0.0	0.0	0.0
進学就職・その他	1.6	1.1	0.0	0.0	2.0	1.9	0.0	7.0	11.8	5.6
文系理系・国公立私立・その他	1.4	1.6	0.0	2.9	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0
進学就職・文系理系・国公立私立・その他	0.8	0.9	0.0	1.0	1.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0
進学就職・国公立私立	0.8	0.4	0.0	0.5	1.0	0.0	5.0	2.3	0.0	5.6
国公立私立	0.8	0.9	0.0	0.5	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
進学就職・国公立私立・その他	0.4	0.4	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
進学就職・文系理系・その他	0.4	0.2	0.0	0.0	1.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0
国公立私立・その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注 1) 進路別のコース分けを実施していると回答した校長 (n=514) のみ分析。

注 2) ○は全体よりも 5 ポイント以上、●は 10 ポイント以上高いものを示す。

注 3) □は全体よりも 5 ポイント以上、▭は 10 ポイント以上低いものを示す。

注 4) 「進学者／就職者向けコース」を「進学就職」、「文系／理系コース」を「文系理系」、「国公立大学進学／私立大学進学コース」を「国公立私立」と表記している。

注 5) 進路別のコース分けパターンが「無回答・不明」なものを除いて算出した。

学校種別に組み合わせパターンの傾向をみると、「文系理系」のみのパターンは、普通科 A グループ (76.5%) と B グループ (65.7%) でとくに高くなっている (表 2-2-1)。「進

学就職」のみのパターンについては、専門学科で 51.2% (商業では 55.6%) ととくに高くなっている。

# I 生徒・学校の特徴と教育課程の編成

## 2-7 カリキュラム編成の特徴3分類<sup>※</sup>別にみた進路別のコース分け

※「カリキュラム編成の特徴3分類」は2章1節図2-1-3を参照。

2-6において、普通科A・Bグループで「文系理系」のみのコース分けパターンの比率が高いことが確認されたが、両グループとも「共通学習内容重視型」でその傾向がさらに強まる。全体的に「共通学習内容重視型」は「個別対応重視型」「両立型」と比較して該当するコース分けの組み合わせパターンが少なく、「文系理系」のコース分けの開始学年が遅い傾向がある。

表2-2-2 進路別のコース分けの組み合わせパターン【校長調査】(カリキュラム編成の特徴3分類別)

	全体 (n=514)	普通科 (n=447)	Aグループ (n=52)	個別対応 重視型 (n=16)	共通学習 内容重視型 (n=11)	両立型 (n=19)	Bグループ (n=204)	個別対応 重視型 (n=71)	共通学習 内容重視型 (n=38)	両立型 (n=70)
文系理系	46.3	52.4	76.5	73.3	81.8	73.7	65.7	56.3	71.1	67.1
文系理系・国公立私立	13.5	15.3	13.7	20.0	18.2	10.5	19.6	19.7	23.7	18.6
進学就職	13.3	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	2.8	0.0	1.4
その他	9.4	5.2	3.9	0.0	0.0	10.5	1.5	4.2	0.0	0.0
進学就職・文系理系	6.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	5.6	0.0	1.4
文系理系・その他	2.9	3.4	3.9	6.7	0.0	5.3	2.9	2.8	5.3	2.9
進学就職・文系理系・国公立私立	2.3	1.8	2.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.8	0.0	0.0
進学就職・その他	1.6	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
文系理系・国公立私立・その他	1.4	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	2.8	0.0	5.7
進学就職・文系理系・国公立私立・その他	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.4	0.0	1.4
進学就職・国公立私立	0.8	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.4	0.0	0.0
国公立私立	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	1.4
進学就職・国公立私立・その他	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
進学就職・文系理系・その他	0.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
国公立私立・その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注1) 進路別のコース分けを実施していると回答した校長 (n=514) のみ分析。

注2) ○はそれぞれのグループの全体平均よりも5ポイント以上高いものを示す。

注3) □はそれぞれのグループの全体平均よりも5ポイント以上低いものを示す。

注4) 「進学者／就職者向けコース」を「進学就職」、「文系／理系コース」を「文系理系」、「国公立大学進学／私立大学進学コース」を「国公立私立」と表記している。

注5) 進路別のコース分けパターンが「無回答・不明」なものを除いて算出した。

表 2-2-3 文系/理系コース分けの実施率・開始学年【校長調査】(カリキュラム編成の特徴3分類別)

		(%)									
		全体 (n=514)	普通科 (n=447)	Aグループ (n=52)	個別対応 重視型 (n=16)	共通学習 内容重視型 (n=11)	両立型 (n=19)	Bグループ (n=204)	個別対応 重視型 (n=71)	共通学習 内容重視型 (n=38)	両立型 (n=70)
文系/理系コース 分けの実施率	実施している	73.5	81.9	94.2	93.8	100.0	89.5	96.1	91.5	100.0	97.1
	無回答・不明	0.4	0.4	1.9	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
文系/理系コースの 開始学年	1年生	2.4	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	1.5	0.0	4.4
	2年生	86.0	85.8	81.6	93.3	72.7	76.5	87.8	93.8	84.2	79.4
	3年生	11.1	11.2	18.4	6.7	27.3	23.5	10.2	4.6	15.8	16.2
	無回答・不明	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注1) 文系/理系コース分けの実施率は、進路別のコース分けを実施していると回答した校長 (n=514) のみ分析。

注2) 文系/理系コースの開始学年は、文系/理系コース分けを実施していると回答した校長 (n=378) のみ分析。

注3) ○はそれぞれのグループの全体平均よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注4) □はそれぞれのグループの全体平均よりも5ポイント以上低いものを示す。

普通科 A・B グループのなかでも、学校レベルのカリキュラム編成の特徴によってコース分けの組み合わせパターンが異なっていることが考えられる。実際、「文系理系」のみのパターンの比率をみると、いずれのグループにおいても、「共通学習内容重視型」で比率が高い(表 2-2-2)。また全体的に、「共通学習内容重視型」は「個別対応重視型」や「両立型」と比較して該当するコース分けの組み合わせパター

ンが少ない。

普通科 A・B グループについて、カリキュラム編成の特徴別に「文系/理系コース」分けの実施率と開始学年をみると、いずれのグループにおいても、「共通学習内容重視型」で「文系/理系コース」分けの実施率が 100.0% で、実施学年が相対的に遅い傾向が確認された(表 2-2-3)。

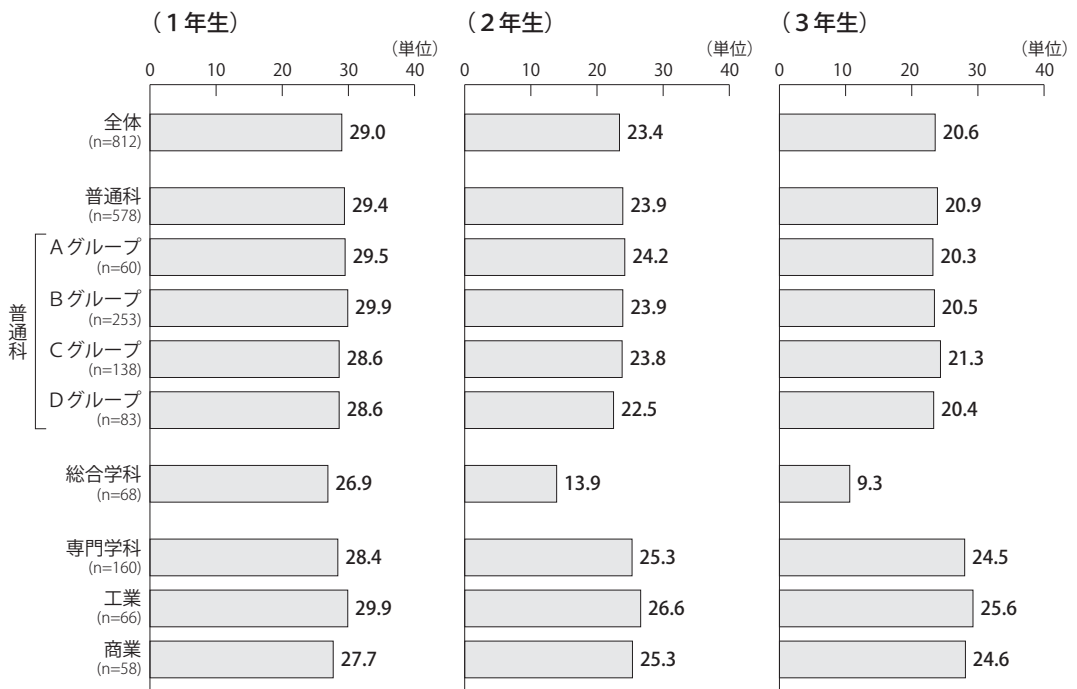
### 第3節 必履修単位数と6教科<sup>※</sup>の合計単位数

※ここで「6教科」とは、「国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語」を指す。

#### 3-1 必履修単位数

各学年に割りあてられている必履修単位数をたずねたところ、全体の平均単位数は、1年生が29.0単位、2年生が23.4単位、3年生が20.6単位であった。1年生では学校種別に大きな差はみられないが、2年生、3年生になると、総合学科の必履修単位数が少なくなる。

図2-3-1 必履修単位数〔平均値〕【校長調査】



注)「無回答・不明」を除いて算出した。

各学年に割りあてられている必履修単位数(単位数に幅がある場合は最低の単位数)をたずねたところ、全体の平均単位数は、1年生が29.0単位、2年生が23.4単位、3年生が20.6単位であった(図2-3-1)。学校種別にみると、1年生では30単位弱でほぼ一致し

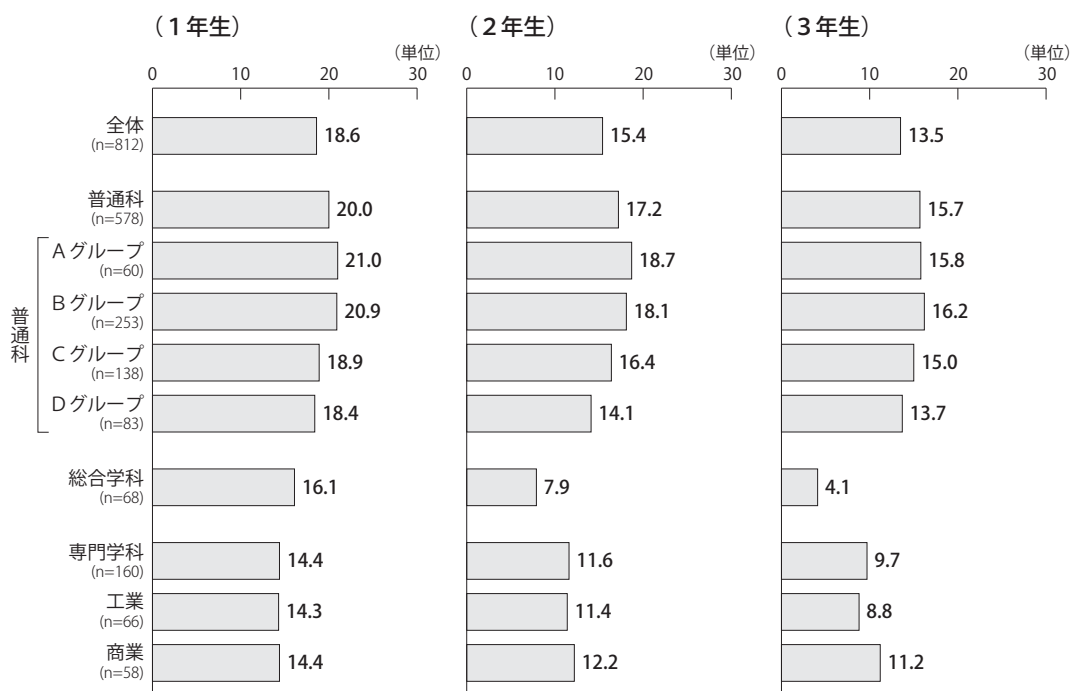
ているが、2年生になると総合学科が13.9単位と少ない。3年生になると普通科は20単位前後、専門学科は25単位前後ではほぼ一致しているが、総合学科では9.3単位とさらに少なくなっている。

### 3-2 必履修単位のうち6教科\*の合計単位数

\*ここで「6教科」とは、「国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語」を指す。

各学年に割りあてられている必履修単位数のうち、国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語の6教科の合計単位数をたずねたところ、全体の平均合計単位数は、1年生が18.6単位、2年生が15.4単位、3年生が13.5単位であった。いずれの学年においても、普通科A・Bグループで6教科の合計単位数が多くなっている。

図2-3-2 必履修単位のうち6教科の合計単位数【校長調査】



注)「無回答・不明」を除いて算出した。

各学年に割りあてられている必履修単位数(単位数に幅がある場合は最低の単位数)のうち、国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語の6教科の合計単位数についてみてみよう。全体の平均合計単位数は、1年生が18.6単位、2年生が15.4単位、3年生が13.5単位であっ

た(図2-3-2)。学校種別にみても、いずれの学年においても、普通科A・Bグループで6教科の合計単位数が多くなっている。一方、合計単位数が少ないのは、1年生では専門学科で14.4単位、2年生、3年生では総合学科でそれぞれ7.9単位、4.1単位であった。

## I 生徒・学校の特徴と教育課程の編成

### 3-3 カリキュラム編成の特徴3分類<sup>※</sup>別にみた必履修単位数と6教科<sup>※※</sup>の合計単位数

※「カリキュラム編成の特徴3分類」については2章1節図2-1-3を参照。

※※ここで「6教科」とは、「国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語」を指す。

必履修単位数のうち6教科の合計単位数が占める比率を算出したところ、全体では65.1%であった。学校種別でみると、普通科Aグループで75.0%、Bグループで74.3%であった。これをカリキュラム編成の特徴別にみてみたところ、普通科A・Bグループともに、「個別対応重視型」の比率は「共通学習内容重視型」「両立型」に比べて低かった。

表2-3-1 必履修単位数と必履修単位のうち6教科の合計単位数〔平均値〕【校長調査】

(単位)

	全体 (n=812)	普通科 (n=578)	Aグループ (n=60)	Bグループ (n=253)	Cグループ (n=138)	Dグループ (n=83)	総合学科 (n=68)	専門学科 (n=160)	工業 (n=66)	商業 (n=58)
必履修単位数	1年生	29.0	29.4	29.5	29.9	28.6	26.9	28.4	29.9	27.7
	2年生	23.4	23.9	24.2	23.9	23.8	22.5	13.9	25.3	26.6
	3年生	20.6	20.9	20.3	20.5	21.3	20.4	9.3	24.5	25.6
	合計	73.0	74.2	74.0	74.3	73.7	71.5	50.1	78.2	82.1
6教科の合計単位数	1年生	18.6	20.0	21.0	20.9	18.9	16.1	14.4	14.3	14.4
	2年生	15.4	17.2	18.7	18.1	16.4	14.1	7.9	11.6	11.4
	3年生	13.5	15.7	15.8	16.2	15.0	13.7	4.1	9.7	8.8
	合計	47.5	52.9	55.5	55.2	50.3	46.2	28.1	35.7	34.5
必履修単位数に占める 6教科の合計単位数の比率	65.1%	71.3%	75.0%	74.3%	68.2%	64.6%	56.1%	45.7%	42.0%	48.7%

注) ここで「6教科」とは、「国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語」を指す。

表2-3-2 必履修単位数と必履修単位のうち6教科の合計単位数〔平均値〕【校長調査】

(カリキュラム編成の特徴3分類別)

(単位)

	全体 (n=812)	普通科 (n=578)	Aグループ (n=60)	個別対応 重視型 (n=18)	共通学習 内容重視型 (n=14)	両立型 (n=21)	Bグループ (n=253)	個別対応 重視型 (n=94)	共通学習 内容重視型 (n=46)	両立型 (n=82)
必履修単位数	1年生	29.0	29.4	29.5	29.5	29.2	29.9	29.4	29.4	30.9
	2年生	23.4	23.9	24.2	23.3	23.8	26.4	23.9	22.1	25.5
	3年生	20.6	20.9	20.3	20.0	19.5	22.5	20.5	18.8	22.1
	合計	73.0	74.2	74.0	72.8	72.5	79.4	74.3	70.3	76.6
6教科の合計単位数	1年生	18.6	20.0	21.0	20.4	20.5	21.5	20.9	20.4	21.6
	2年生	15.4	17.2	18.7	17.3	18.0	20.7	18.1	16.0	19.0
	3年生	13.5	15.7	15.8	14.0	15.8	18.1	16.2	13.8	18.5
	合計	47.5	52.9	55.5	51.7	54.3	60.3	55.2	50.2	59.3
必履修単位数に占める 6教科の合計単位数の比率	65.1%	71.3%	75.0%	71.0%	74.9%	75.9%	74.3%	71.4%	77.4%	73.8%

注) ここで「6教科」とは、「国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語」を指す。

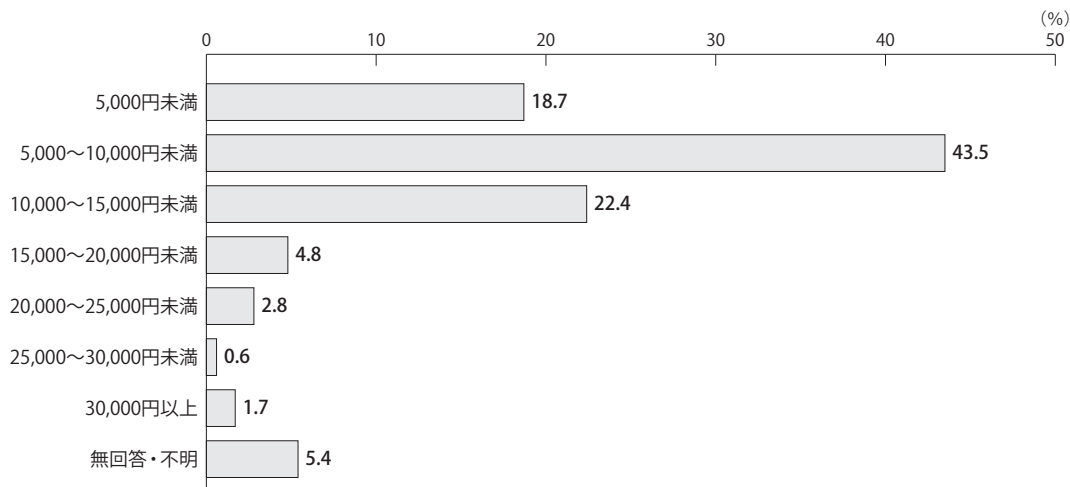
各学年に割りあてられている必履修単位数とそのうちの6教科の合計単位数の平均値を用いて、必履修単位数のうち6教科の合計単位数が占める比率を算出したところ、全体では65.1%であった(表2-3-1)。学科別にみると、普通科(71.3%)>総合学科(56.1%)>専門学科(45.7%)の順であった。さらに普通科のなかでは、普通科Aグループ(75.0%)>Bグループ(74.3%)>Cグループ(68.2%)>Dグループ(64.6%)となっていることから、生徒の中学校時代の成績(評定平均)が高い高校ほど、必履修単位数に占める6教科の合計単位数の比率が高いことがわかる。

とくに6教科の合計単位数が占める比率が高かった普通科A・Bグループに着目し、カリキュラム編成の特徴別に差異がないかを確認した(表2-3-2)。普通科Aグループについては「両立型」(75.9%)>「共通学習内容重視型」(74.9%)>「個別対応重視型」(71.0%)、普通科Bグループについては「共通学習内容重視型」(77.4%)>「両立型」(73.8%)>「個別対応重視型」(71.4%)となっていることから、いずれのグループにおいても、「個別対応重視型」は「共通学習内容重視型」「両立型」と比べて、6教科の合計単位数が占める比率が低いことがわかる。

## 第4節 学校徴収金

生徒一人あたりの学校徴収金（月額）をたずねたところ、「5,000～10,000円未満」と回答した比率が43.5%と最も高く、「10,000～15,000円未満」と回答した比率は22.4%と2番目に高かった。なお、平均で見ると9,238円であった。

図2-4-1 生徒一人あたりの学校徴収金（月額）【校長調査】（全体）



注) 募集定員が最も多い学科を回答した校長（n=812）のみ分析。

表2-4-1 生徒一人あたりの学校徴収金（月額）【平均値】【校長調査】

	全体 (n=812)	普通科 (n=578)	Aグループ (n=60)	Bグループ (n=253)	Cグループ (n=138)	Dグループ (n=83)	総合学科 (n=68)	専門学科 (n=160)	工業 (n=66)	商業 (n=58)
生徒一人あたりの学校徴収金（月額）【平均値】	9,238	9,410	9,788	10,051	8,711	7,438	7,103	9,375	9,038	9,481

注) 「生徒一人あたりの学校徴収金（月額）【平均値】」は、「5,000円未満」を2,500円、「5,000～10,000円未満」を7,500円、「30,000円以上」を32,500円のように置き換えて、「無回答・不明」を除いて算出した。

校長に、生徒一人あたりの学校徴収金（教材・副教材費、模擬試験代、積立金、PTA会費、生徒会費などの毎月定期的に集金するもの）をたずねたところ、もっとも高かったのは「5,000～10,000円未満」で43.5%であり、2番目に高かったのは「10,000～15,000円未満」で22.4%であった（図2-4-1）。

学校徴収金の額を推定してみると、全体平均では9,238円であった（表2-4-1）。これを学校種別に見てみると、普通科Aグループ（9,788円）や普通科Bグループ（10,051円）で1万円前後と高く、普通科Dグループ（7,438円）や総合学科（7,103円）で7千円台と低かった。専門学科では9,375円であった。



## 第5節 平日の朝・放課後、土曜日、長期休業中の時間の活用状況

### 5-1 平日の朝読書

平日の朝読書の実施率は40.5%。普通科 A グループの実施率をもっとも低く 23.3%、専門学科、とくに商業の実施率は50.0%と高かった。実施している場合の主な目的は、学校種によらず「学習（生活）習慣の確立」であった。

図2-5-1 平日の朝読書の実施状況  
【校長調査】(全体)

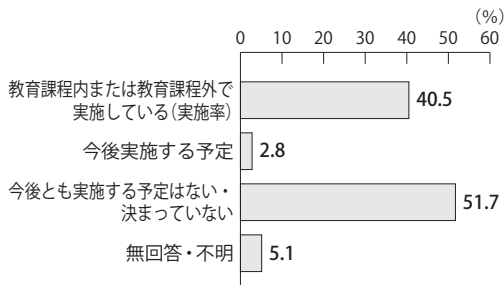
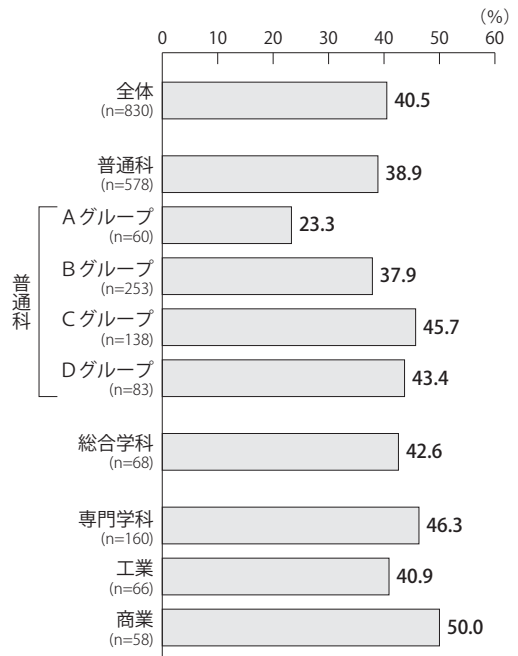


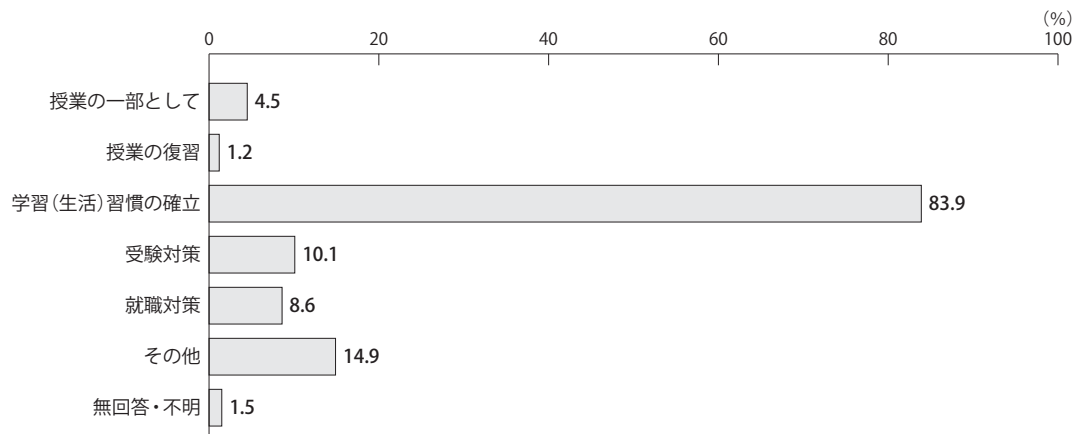
図2-5-2 平日の朝読書の実施率  
【校長調査】



平日の朝読書の実施状況について校長にたずねたところ、「教育課程内または教育課程外で実施している（実施率）」は40.5%であった（図2-5-1）。「今後とも実施する予定はない・決まっていない」と回答した比率は51.7%であることから、約半数の高校は朝読書を実施する

見込みがないようだ。朝読書の実施率を学校種別にみると、普通科 A グループでもっとも低く 23.3%であったのに対して、専門学科、とくに商業では50.0%の高校が実施していることがわかる（図2-5-2）。

図 2-5-3 平日の朝読書の目的【校長調査】(全体)



注 1) 複数回答。

注 2) 平日の朝読書を実施していると回答した校長 (n=336) のみ分析。

表 2-5-1 平日の朝読書の目的【校長調査】

	全体 (n=336)	普通科 (n=225)	Aグループ (n=14)	Bグループ (n=96)	Cグループ (n=63)	Dグループ (n=36)	総合学科 (n=29)	専門学科 (n=74)	工業 (n=27)	商業 (n=29)
授業の一部として	4.5	5.8	14.3	6.3	3.2	5.6	3.4	1.4	0.0	0.0
授業の復習	1.2	1.8	0.0	2.1	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
学習(生活)習慣の確立	83.9	83.1	57.1	81.3	88.9	86.1	75.9	89.2	92.6	82.8
受験対策	10.1	11.1	14.3	7.3	14.3	8.3	6.9	6.8	7.4	10.3
就職対策	8.6	6.7	7.1	1.0	12.7	11.1	6.9	13.5	14.8	10.3
その他	14.9	16.9	21.4	17.7	12.7	16.7	17.2	9.5	7.4	10.3
無回答・不明	1.5	1.3	0.0	0.0	3.2	2.8	0.0	2.7	3.7	3.4

注 1) 複数回答。

注 2) 平日の朝読書を実施していると回答した校長 (n = 336) のみ分析。

注 3) ○は全体よりも 5 ポイント以上、●は 10 ポイント以上高いものを示す。

注 4) □は全体よりも 5 ポイント以上、▬は 10 ポイント以上低いものを示す。

次に、平日の朝読書の目的についてみると、「学習(生活)習慣の確立」の比率がもっとも高く 83.9%であった(図 2-5-3)。目的について学校種別にみると、どの学校種においても「学習(生活)習慣の確立」の比率

がもっとも高くなっていることがわかる(表 2-5-1)。ただし、普通科 A グループでは「学習(生活)習慣の確立」の比率は 57.1%にとどまっている。

# I 生徒・学校の特徴と教育課程の編成

## 5-2 平日の朝学習（0時間目や朝補習など）

平日の朝学習の実施率は50.1%。普通科Bグループの実施率ももっとも高く59.7%であったのに対して、もっとも低かったのは総合学科で35.3%であった。実施している場合の主な目的は、第1に「受験対策」（67.8%）、第2に「学習習慣の確立」（46.2%）であった。

図2-5-4 平日の朝学習の実施状況  
【校長調査】（全体）

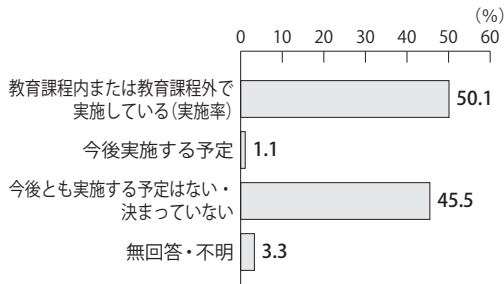
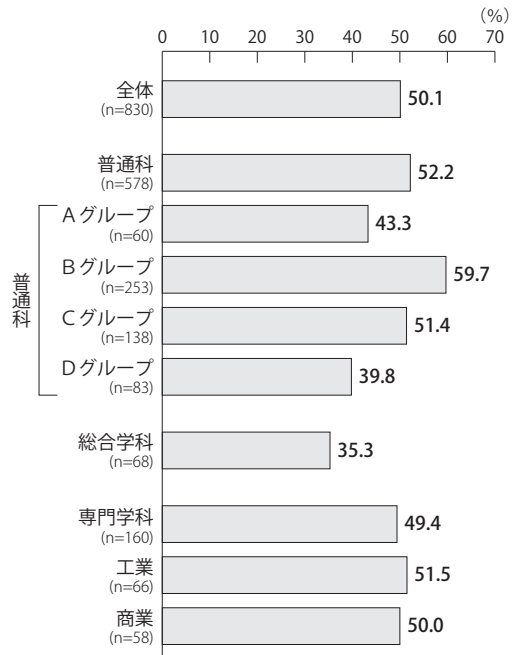


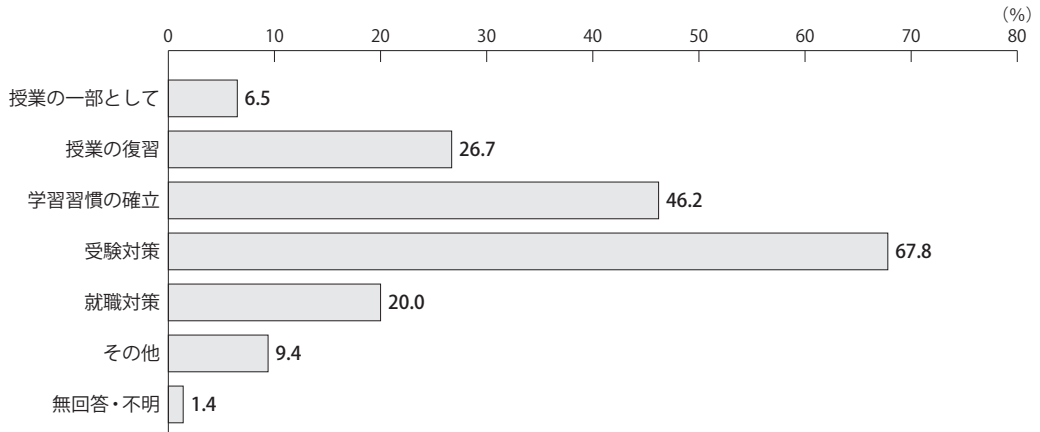
図2-5-5 平日の朝学習の実施率  
【校長調査】



平日の朝学習の実施状況について校長にたずねたところ、「教育課程内または教育課程外で実施している（実施率）」は50.1%であった（図2-5-4）。なお、「今後とも実施する予定はない・決まっていない」と回答した比率は

45.5%であった。朝学習の実施率を学校種別に見てみると、普通科Bグループの実施率ももっとも高く59.7%であったのに対して、もっとも低かったのは総合学科で35.3%であった（図2-5-5）。

図2-5-6 平日の朝学習の目的【校長調査】(全体)



注1) 複数回答。

注2) 平日の朝学習を実施していると回答した校長 (n=416) のみ分析。

表2-5-2 平日の朝学習の目的【校長調査】

	全体 (n=416)	普通科 (n=302)	Aグループ (n=26)	Bグループ (n=151)	Cグループ (n=71)	Dグループ (n=33)	総合学科 (n=24)	専門学科 (n=79)	工業 (n=34)	商業 (n=29)
授業の一部として	6.5	7.9	7.7	5.3	14.1	9.1	8.3	1.3	0.0	3.4
授業の復習	26.7	29.8	34.6	35.8	21.1	15.2	25.0	16.5	11.8	27.6
学習習慣の確立	46.2	46.0	34.6	48.3	43.7	54.5	50.0	45.6	44.1	41.4
受験対策	67.8	70.5	73.1	72.8	70.4	60.6	66.7	58.2	64.7	55.2
就職対策	20.0	13.2	0.0	6.6	22.5	39.4	33.3	40.5	52.9	31.0
その他	9.4	4.6	0.0	4.6	7.0	3.0	0.0	30.4	47.1	24.1
無回答・不明	1.4	1.0	3.8	0.7	0.0	3.0	4.2	1.3	0.0	3.4

注1) 複数回答。

注2) 平日の朝学習を実施していると回答した校長 (n=416) のみ分析。

注3) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注4) □は全体よりも5ポイント以上、▬は10ポイント以上低いものを示す。

実施している場合の主な目的は、第1に「受験対策」(67.8%)、第2に「学習習慣の確立」(46.2%)であった(図2-5-6)。学校種別

専門学科では、「就職対策」の比率が3~4割と高くなっている(表2-5-2)。専門学科のなかでもとくに工業では、「就職対策」の比率が52.9%と高い。

# I 生徒・学校の特徴と教育課程の編成

## 5-3 平日の放課後の補習、進路等の指導

平日の放課後の補習、進路等の指導の実施率は90.7%と高い。いずれの学校種においても、実施率は8～9割となっていることから、ほとんどの高校で実施していると考えられる。主な目的は「受験対策」(90.2%)であり、すべての学校種でもっとも比率の高い目的となっている。

図2-5-7 平日の放課後の補習、進路等の指導の実施状況【校長調査】(全体)

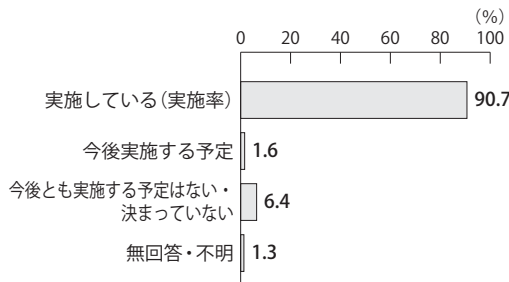
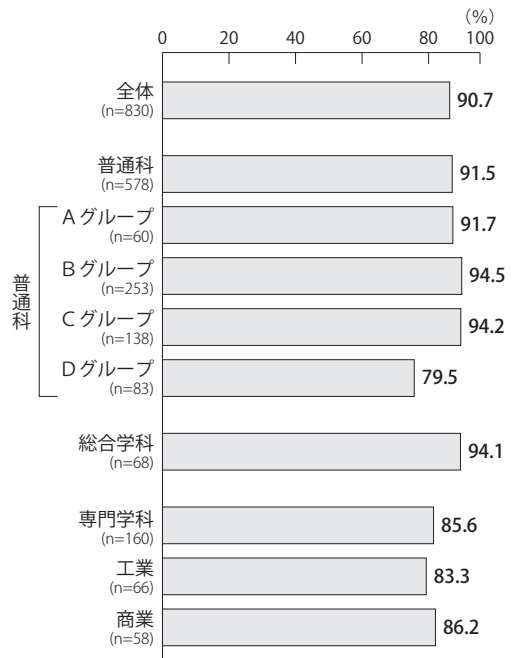


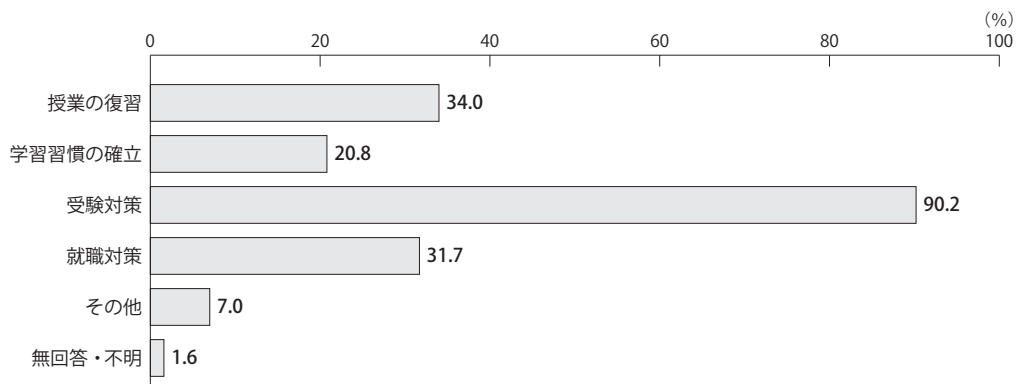
図2-5-8 平日の放課後の補習、進路等の指導の実施率【校長調査】



平日の放課後の補習、進路等の指導の実施状況について校長にたずねたところ、「実施している(実施率)」は90.7%であった(図2-5-7)。「今後実施する予定」(1.6%)や「今後とも実施する予定はない・決まっていない」(6.4%)は1割を切っている。実施率を学校種

別にみても、普通科Dグループの実施率が79.5%でもっとも低く、専門学科では8割5分前後と、全体の実施率と比較してやや低くなっているほかは、実施率が9割を超えている(図2-5-8)。

図 2-5-9 平日の放課後の補習、進路等の指導の目的【校長調査】(全体)



注 1) 複数回答。

注 2) 平日の放課後の補習、進路等の指導を実施していると回答した校長 (n=753) のみ分析。

表 2-5-3 平日の放課後の補習、進路等の指導の目的【校長調査】

	全体 (n=753)	普通科 (n=529)	Aグループ (n=55)	Bグループ (n=239)	Cグループ (n=130)	Dグループ (n=66)	総合学科 (n=64)	専門学科 (n=137)	工業 (n=55)	商業 (n=50)
授業の復習	34.0	36.3	45.5	36.0	37.7	34.8	26.6	27.0	23.6	36.0
学習習慣の確立	20.8	21.6	10.9	20.5	23.8	24.2	17.2	21.2	21.8	22.0
受験対策	90.2	94.3	90.9	97.1	92.3	89.4	90.6	74.5	80.0	64.0
就職対策	31.7	23.8	1.8	11.7	35.4	68.2	45.3	54.7	65.5	38.0
その他	7.0	1.1	1.8	1.3	0.8	1.5	0.0	32.8	43.6	36.0
無回答・不明	1.6	1.3	3.6	1.3	0.8	1.5	3.1	1.5	0.0	4.0

注 1) 複数回答。

注 2) 平日の放課後の補習、進路等の指導を実施していると回答した校長 (n = 753) のみ分析。

注 3) ○は全体よりも 5 ポイント以上、●は 10 ポイント以上高いものを示す。

注 4) □は全体よりも 5 ポイント以上、▬は 10 ポイント以上低いものを示す。

実施している場合の主な目的は、「受験対策」の比率がもっとも高く 90.2%であった(図 2-5-9)。「授業の復習」(34.0%)や「就職対策」(31.7%)の比率も、3割台と比較的高くなっている。学校種別に見てみると、普通科 A グループでは「授業の復習」の比率が 45.5%と全

体平均よりも 10 ポイント以上高くなっている(表 2-5-3)。また、普通科 D グループ、総合学科、専門学科では「就職対策」の比率が全体平均よりも 10 ポイント以上高くなっている。

# I 生徒・学校の特徴と教育課程の編成

## 5-4 土曜日の学習、進路等の指導

土曜日の学習、進路等の指導の実施率は50.7%と半数を超えている。学校種別にみても、普通科Aグループで85.0%ともっとも高く、普通科Dグループ、専門学科で2割5分程度と低くなっている。実施している場合の主な目的は、「受験対策」の比率がもっとも高く83.6%であった。

図2-5-10 土曜日の学習、進路等の指導の実施状況【校長調査】(全体)

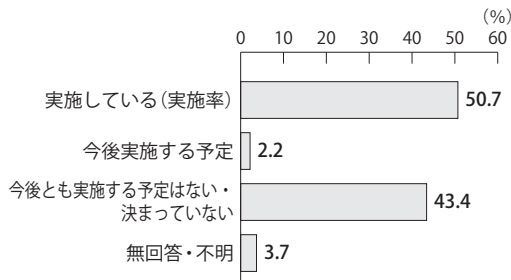
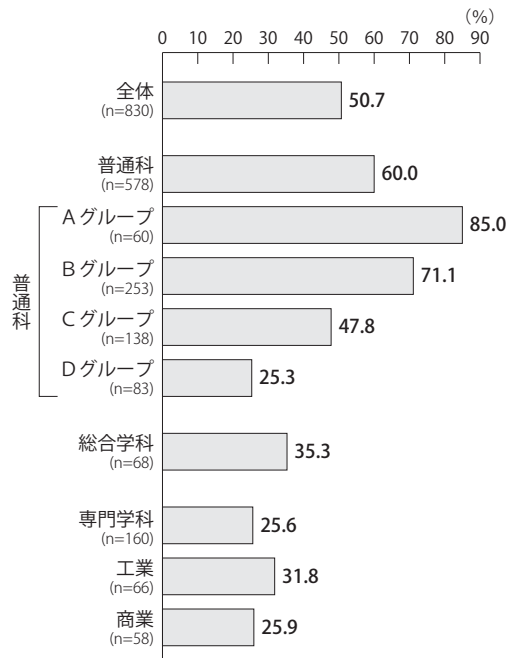


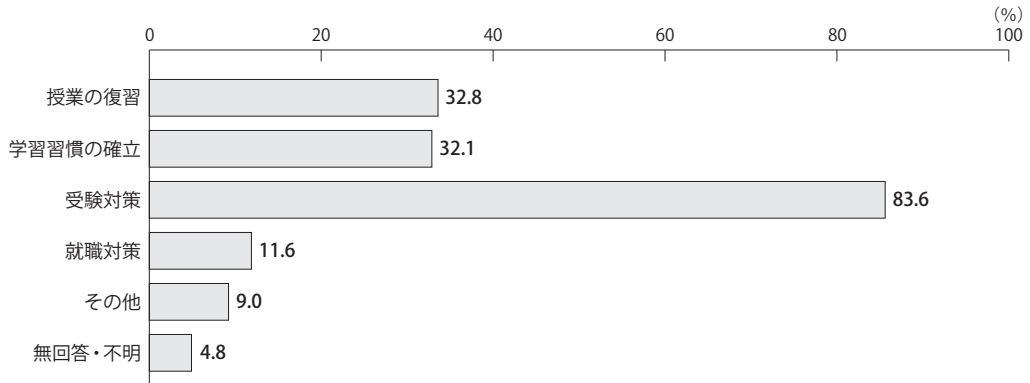
図2-5-11 土曜日の学習、進路等の指導の実施率【校長調査】



土曜日の補習、進路等の指導の実施状況について校長にたずねたところ、「実施している(実施率)」は50.7%と半数を超えていた(図2-5-10)。実施率を学校種別にみても、普通科Aグループで85.0%ともっとも高く、普

通科Dグループ、専門学科で2割5分程度と低くなっている(図2-5-11)。ここから、生徒の中学校時代の成績(評定平均)が高い高校ほど、土曜日の補習、進路等の指導を熱心に行っていることが推察される。

図 2-5-12 土曜日の学習、進路等の指導の目的【校長調査】(全体)



注1) 複数回答。

注2) 土曜日の学習、進路等の指導を実施していると回答した校長 (n=421) のみ分析。

表 2-5-4 土曜日の学習、進路等の指導の目的【校長調査】

	全体 (n=421)	普通科 (n=347)	Aグループ (n=51)	Bグループ (n=180)	Cグループ (n=66)	Dグループ (n=21)	総合学科 (n=24)	専門学科 (n=41)	工業 (n=21)	商業 (n=15)
授業の復習	32.8	34.9	35.3	42.2	24.2	19.0	29.2	19.5	4.8	26.7
学習習慣の確立	32.1	35.2	19.6	38.9	40.9	42.9	33.3	7.3	0.0	13.3
受験対策	83.6	86.5	80.4	86.7	90.9	85.7	87.5	61.0	66.7	53.3
就職対策	11.6	8.4	0.0	8.3	15.2	14.3	20.8	34.1	52.4	13.3
その他	9.0	4.9	2.0	5.0	6.1	9.5	4.2	46.3	61.9	33.3
無回答・不明	4.8	4.3	9.8	3.9	0.0	0.0	4.2	4.9	0.0	6.7

注1) 複数回答。

注2) 土曜日の学習、進路等の指導を実施していると回答した校長 (n=421) のみ分析。

注3) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注4) □は全体よりも5ポイント以上、▬は10ポイント以上低いものを示す。

実施している場合の主な目的は、「受験対策」の比率がもっとも高く83.6%であった(図2-5-12)。「授業の復習」(32.8%)や「学習習慣の確立」(32.1%)の比率も、3割台と比較的高くなっている。学校種別に見てみると、普

通科Dグループでは「学習習慣の確立」(42.9%)、専門学科では「就職対策」(34.1%)の比率が、全体平均よりも10ポイント以上高い(表2-5-4)。



# I 生徒・学校の特徴と教育課程の編成

## 5-5 長期休業中の学習、進路等の指導

長期休業中の学習、進路等の指導の実施率は91.9%。ほとんどの高校で実施していることがわかる。実施している場合の主な目的は、「受験対策」の比率がもっとも高く89.0%であり、その次に「授業の復習」(47.2%)が続いた。普通科Dグループや総合学科、専門学科では「就職対策」の比率が5~6割と高くなっている。

図2-5-13 長期休業中の学習、進路等の指導の実施状況【校長調査】(全体)

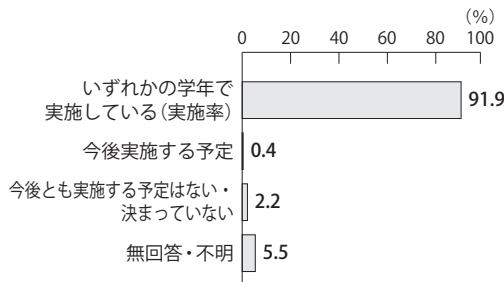
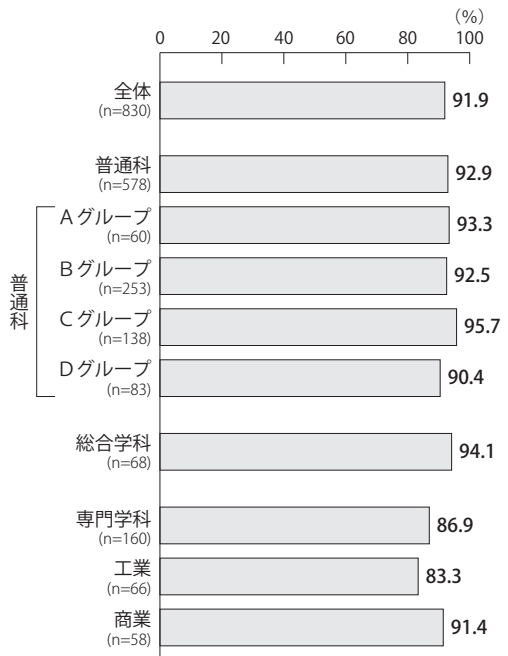


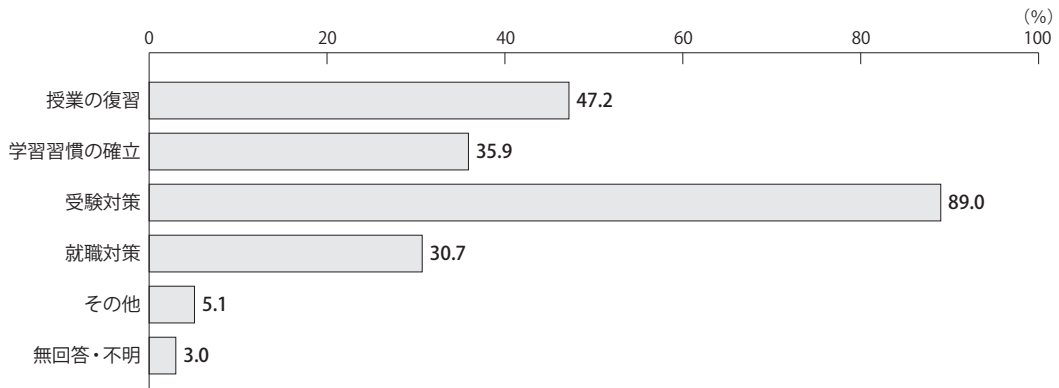
図2-5-14 長期休業中の学習、進路等の指導の実施率【校長調査】



長期休業中の学習、進路等の指導の実施状況について校長にたずねたところ、「いずれかの学年で実施している(実施率)」は91.9%であった。ここから、ほとんどの高校で長期休業中の

指導を実施していることがわかる(図2-5-13)。実施率を学校種別にみると、専門学科でやや低いものの、全体的に9割前後と高くなっている(図2-5-14)。

図 2-5-15 長期休業中の学習、進路等の指導の目的【校長調査】(全体)



注 1) 複数回答。

注 2) 長期休業中の学習、進路等の指導を実施していると回答した校長 (n=763) のみ分析。

表 2-5-5 長期休業中の学習、進路等の指導の目的【校長調査】

	全体 (n=763)	普通科 (n=537)	Aグループ (n=56)	Bグループ (n=234)	Cグループ (n=132)	Dグループ (n=75)	総合学科 (n=64)	専門学科 (n=139)	工業 (n=55)	商業 (n=53)
授業の復習	47.2	50.8	51.8	53.4	46.2	50.7	48.4	32.4	29.1	32.1
学習習慣の確立	35.9	40.8	17.9	43.2	46.2	38.7	37.5	19.4	21.8	20.8
受験対策	89.0	93.7	96.4	96.2	91.7	84.0	95.3	69.1	61.8	79.2
就職対策	30.7	23.1	0.0	11.1	40.2	53.3	46.9	51.8	60.0	47.2
その他	5.1	1.9	0.0	2.6	2.3	1.3	0.0	18.7	27.3	11.3
無回答・不明	3.0	2.6	1.8	3.0	3.8	1.3	1.6	4.3	9.1	0.0

注 1) 複数回答。

注 2) 長期休業中の学習、進路等の指導を実施していると回答した校長 (n=763) のみ分析。

注 3) ○は全体よりも 5 ポイント以上、●は 10 ポイント以上高いものを示す。

注 4) □は全体よりも 5 ポイント以上、▬は 10 ポイント以上低いものを示す。

実施している場合の主な目的は、「受験対策」の比率がもっとも高く 89.0%であり、その次に「授業の復習」(47.2%)が続いた(図 2-5-15)。「学習習慣の確立」(35.9%)や「就職対策」(30.7%)の比率も、3割台と比較的高くなって

いる。学校種別に見てみると、普通科 D グループ、総合学科、専門学科で「就職対策」の比率が 5～6割となっており、全体平均よりも 10 ポイント以上高くなっている(表 2-5-5)。

## I 生徒・学校の特徴と教育課程の編成

### 5-6 カリキュラム編成の特徴3分類<sup>※</sup>別にみた土曜日の時間の活用状況

※「カリキュラム編成の特徴3分類」は2章1節図2-1-3を参照。

同じ普通科のなかでも、生徒の中学校時代の成績（評定平均）が高い高校ほど実施率が高いことが確認された土曜日の学習、進路等の指導に着目し、学校レベルのカリキュラム編成の特徴別に傾向をみてみたところ、普通科Aグループのなかでも、「共通学習内容重視型」における実施率が92.9%と最も高かった。

表2-5-6 土曜日の学習、進路等の指導の実施率【校長調査】

	全体 (n=830)	普通科 (n=578)	Aグループ (n=60)	個別対応 重視型 (n=18)	共通学習 内容重視型 (n=14)	両立型 (n=21)	Bグループ (n=253)	個別対応 重視型 (n=94)	共通学習 内容重視型 (n=46)	両立型 (n=82)
土曜日の学習、進路等の 指導の実施率	50.7	60.0	85.0	88.9	92.9	76.2	71.1	72.3	71.7	67.1

注1) ○はそれぞれのグループの全体平均よりも5ポイント以上高いものを示す。

注2) □はそれぞれのグループの全体平均よりも5ポイント以上低いものを示す。

同じ普通科のなかでも、生徒の中学校時代の成績（評定平均）が高い高校ほど実施率が高いことが確認された土曜日の学習、進路等の指導に着目し、カリキュラム編成の特徴別に傾向をみてみたところ、普通科Aグループのなかでも、「共通学習内容重視型」における実施率が

92.9%と最も高かった。普通科Bグループについては、いずれのカリキュラム編成の特徴別グループの実施率も、普通科Bグループ全体の平均から5ポイント以内の差異にとどまった（表2-5-6）。

## 第6節 学校外の人材の活用状況

### 6-1 地域住民

地域住民の活用率は59.6%。総合学科で70.6%ともっとも高く、普通科Dグループ、専門学科では約5割と全体と比べて低くなっている。主な活用内容は、「部活動の指導・補助」の比率がもっとも高く74.5%であった。一方、「授業中の補助」や放課後・土曜日・長期休業中の指導・補助などの学習面での活用は相対的に少ない。

図2-6-1 地域住民の活用率  
【校長調査】

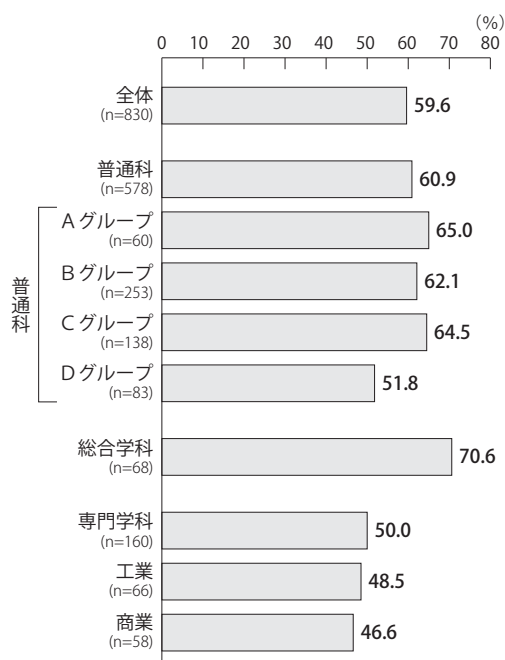
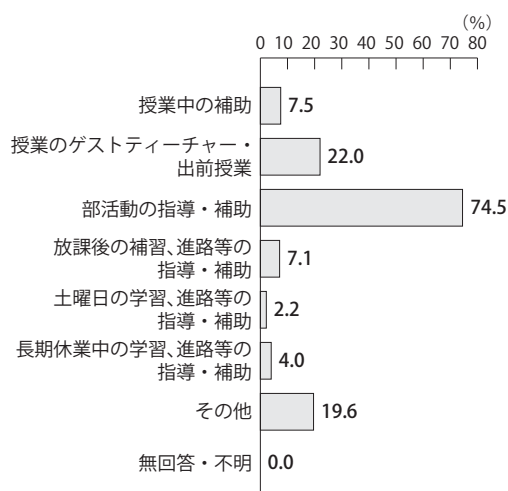


図2-6-2 地域住民の活用内容  
【校長調査】(全体)



注1) 複数回答。

注2) 地域住民を活用していると回答した校長 (n=495) のみ分析。

校長に、地域住民の活用状況をたずねたところ、全体の活用率は59.6%であった(図2-6-1)。学校種別にみても、もっとも実施率が高いのは総合学科で70.6%であった。一方、普通科Dグループ、専門学科では、活用率が約5割と全体と比べて低くなっている。

次に、地域住民を活用している場合の主な活用内容をたずねたところ、「部活動の指導・補助」がもっとも高く74.5%であり、つづいて、「授

業のゲストティーチャー・出前授業」が22.0%と2番目に高かった(図2-6-2)。その他の「授業中の補助」(7.5%)、「放課後の補習、進路等の指導・補助」(7.1%)、「土曜日の学習、進路等の指導・補助」(2.2%)、「長期休業中の学習、進路等の指導・補助」(4.0%)の比率はいずれも1割を切っており相対的に低い。学習面における地域住民の活用はあまり進んでいないようだ。

I 生徒・学校の特徴と教育課程の編成

6-2 大学教員

大学教員の活用率は51.4%。普通科 A グループで73.3%、普通科 B グループで63.6%と高くなっている。主な活用内容は、「授業のゲストティーチャー・出前授業」の比率がもっとも高く79.4%であった。

図2-6-3 大学教員の活用率  
【校長調査】

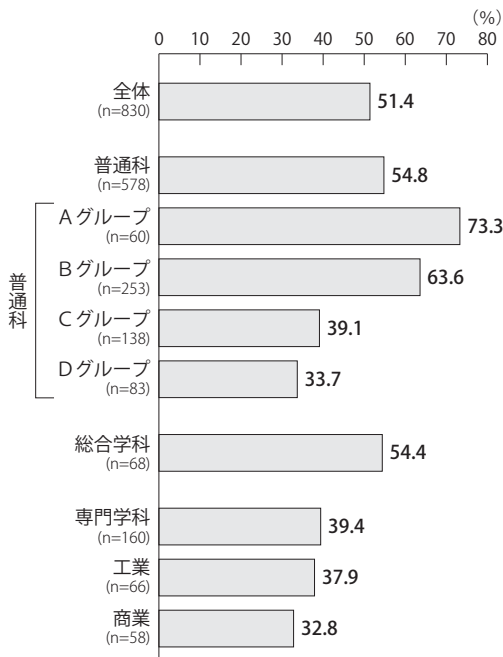
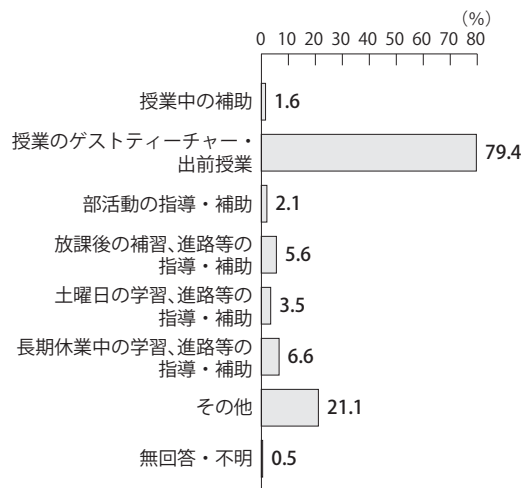


図2-6-4 大学教員の活用内容  
【校長調査】(全体)



注1) 複数回答。  
注2) 大学教員を活用していると回答した校長 (n=427) のみ分析。

校長に、大学教員の活用状況をたずねたところ、全体の活用率は51.4%であった(図2-6-3)。学校種別にみても、もっとも実施率が高いのは普通科 A グループで73.3%、普通科 B グループも63.6%と6割を超えている。

次に、大学教員を活用している場合の主な活

用内容をたずねたところ、「授業のゲストティーチャー・出前授業」の比率が79.4%ともっとも高かった(図2-6-4)。「その他」(21.1%)を除く他の活用内容の比率は、いずれも1割未満と低かった。

## 6-3 大学生・大学院生

大学生・大学院生の活用率は28.4%。学校種別の活用率をみても、普通科Aグループで53.3%ともっとも高く、つづいて普通科Bグループ、総合学科で3割5分前後と高くなっている。主な活用内容については、「部活動の指導・補助」(30.9%)や「授業のゲストティーチャー・出前授業」(23.7%)の比率が相対的に高かった。

図2-6-5 大学生・大学院生の活用率  
【校長調査】

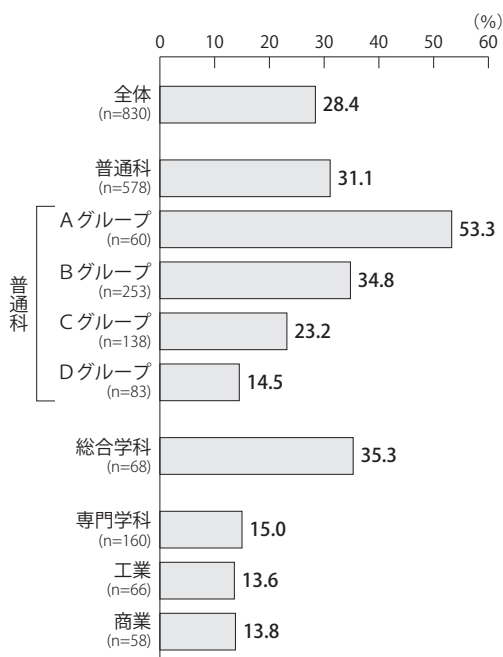
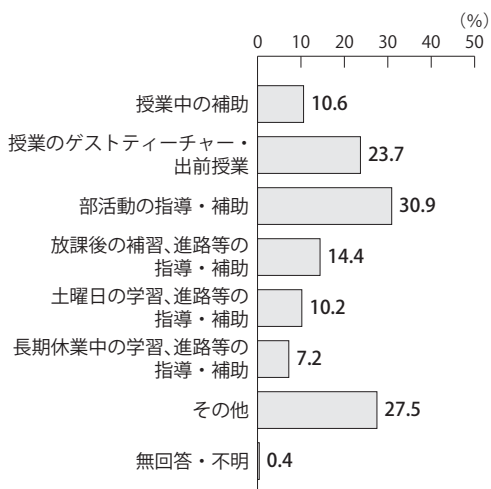


図2-6-6 大学生・大学院生の活用内容  
【校長調査】(全体)



注1) 複数回答。

注2) 大学生・大学院生を活用していると回答した校長 (n=236) のみ分析。

校長に、大学生・大学院生の活用状況をたずねたところ、全体の活用率は28.4%であった(図2-6-5)。学校種別にみても、もっとも実施率が高いのは普通科Aグループで53.3%であり、つづいて普通科Bグループ、総合学科で3割5分前後と、全体と比較するとやや高くなっている。

次に、大学生・大学院生を活用している場合

の主な活用内容をたずねたところ、「部活動の指導・補助」(30.9%)や「授業のゲストティーチャー・出前授業」(23.7%)の比率が相対的に高い(図2-6-6)。なお、「授業中の補助」(10.6%)、「放課後の補習、進路等の指導・補助」(14.4%)、「土曜日の学習、進路等の指導・補助」(10.2%)といった学習面での活用が、それぞれ1割を超えている。

6-4 民間企業の人材

民間企業の人材の活用率は52.5%。学校種別の活用率をみると、総合学科（67.6%）や専門学科（65.0%）で高く、とりわけ専門学科のうち工業では74.2%ともっとも高くなっている。主な活用内容は、「授業のゲストティーチャー・出前授業」の比率がもっとも高く49.5%であった。

図2-6-7 民間企業の人材の活用率  
【校長調査】

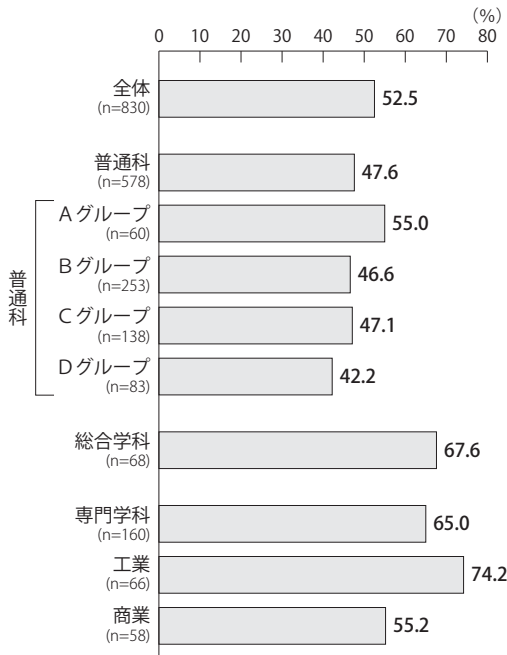
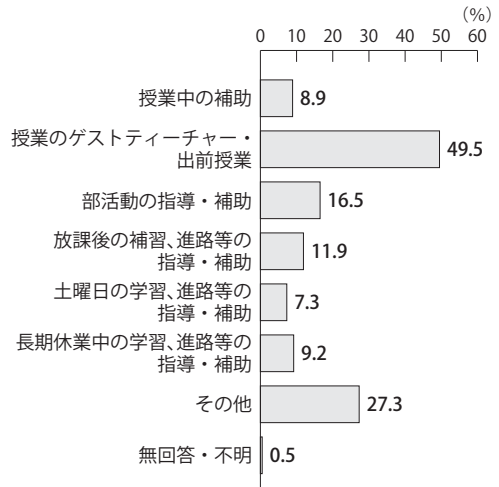


図2-6-8 民間企業の人材の活用内容  
【校長調査】(全体)



注1) 複数回答。  
注2) 民間企業の人材を活用していると回答した校長 (n=436) のみ分析。

校長に、民間企業の人材の活用状況をたずねたところ、全体の活用率は52.5%であった(図2-6-7)。学校種別にみると、総合学科(67.6%)や専門学科(65.0%)で高く、とりわけ専門学科のうち工業では74.2%ともっとも高くなっている。

次に、民間企業の人材を活用している場合の主な活用内容をたずねたところ、「授業のゲス

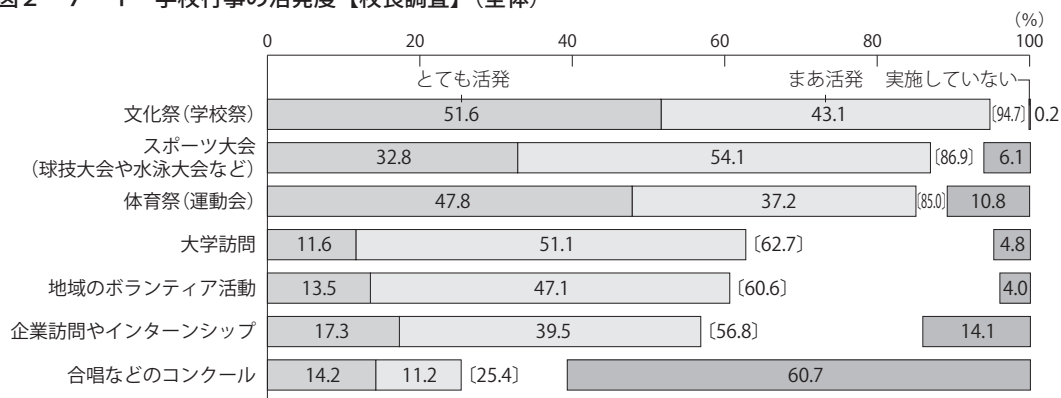
トティーチャー・出前授業」の比率がもっとも高く49.5%であった(図2-6-8)。なお、「部活動の指導・補助」(16.5%)や「放課後の補習、進路等の指導・補助」(11.9%)の比率も1割を超えているが、「授業のゲストティーチャー・出前授業」と比べると相対的に低いものとなっている。

## 第7節 学校行事

### 7-1 学校行事の活発度

「文化祭（学校祭）」が「活発」（「とても活発」「まあ活発」の合計、以下同）と回答した比率は94.7%。「スポーツ大会（球技大会や水泳大会など）」（86.9%）や「体育祭（運動会）」（85.0%）についても「活発」と回答した比率が高いが、「実施していない」と回答した比率はそれぞれ6.1%、10.8%となっている。

図2-7-1 学校行事の活発度【校長調査】（全体）



注) [ ] 内は「とても活発」+「まあ活発」の%。

表2-7-1 学校行事の活発度【校長調査】

	全体 (n=830)	普通科 (n=578)	Aグループ (n=60)	Bグループ (n=253)	Cグループ (n=138)	Dグループ (n=83)	総合学科 (n=68)	専門学科 (n=160)	工業 (n=66)	商業 (n=58)
文化祭(学校祭)	94.7	95.2	100.0	98.4	94.9	80.8	97.1	92.5	92.4	93.1
スポーツ大会(球技大会や水泳大会など)	86.9	87.3	93.3	90.1	84.1	77.1	83.9	85.7	86.4	82.8
体育祭(運動会)	85.0	85.6	90.0	89.0	81.2	83.2	83.8	84.4	86.4	84.5
大学訪問	62.7	71.6	90.0	82.6	65.2	28.9	54.4	36.3	31.9	43.1
地域のボランティア活動	60.6	57.7	38.3	51.8	71.7	69.9	72.0	65.7	54.6	65.5
企業訪問やインターンシップ	56.8	44.6	23.3	32.8	56.5	73.5	76.4	91.3	90.9	88.0
合唱などのコンクール	25.4	29.8	50.0	38.3	18.9	10.8	22.1	11.9	3.0	22.4

注1) 「とても活発」+「まあ活発」の%。

注2) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注3) 〃は全体よりも5ポイント以上、〃は10ポイント以上低いものを示す。

校長に、学校行事の活発度をたずねたところ、「活発」（「とても活発」「まあ活発」の合計、以下同）と回答した比率がもっとも高かったのは、「文化祭（学校祭）」であり、94.7%であった（図2-7-1）。「スポーツ大会（球技大会や水泳大会など）」（86.9%）や「体育祭（運動会）」（85.0%）についても「活発」と回答した比率が高いが、「実施していない」と回答した比率はそれぞれ6.1%、10.8%となっている。

学校種別にみても、普通科A・Bグループでは「大学訪問」「合唱などのコンクール」が「活発」と回答した比率が全体よりも10ポイント以上高い（表2-7-1）。普通科Cグループ、総合学科では「地域のボランティア活動」、普通科Dグループ、総合学科、専門学科では「企業訪問やインターンシップ」が「活発」と回答した比率が全体よりも10ポイント以上高い。

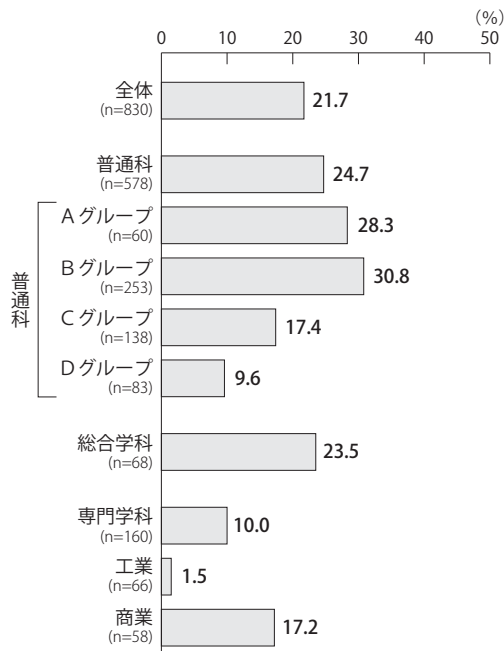


I 生徒・学校の特徴と教育課程の編成

7-2 学習中心の宿泊を伴う合宿の実施の有無

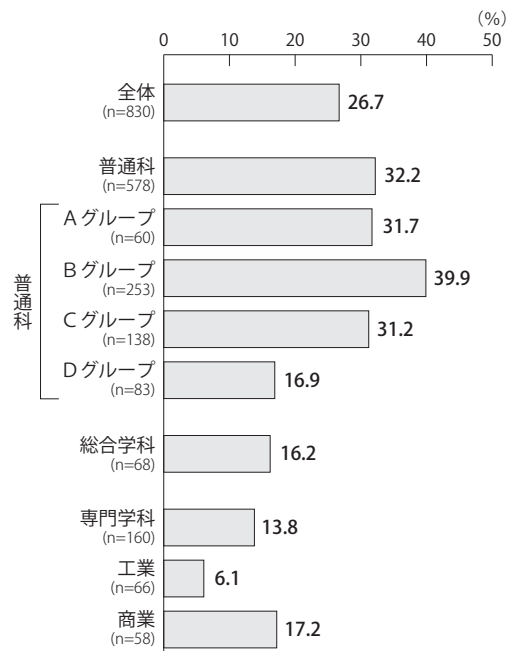
「高校入学時の学習中心のオリエンテーション合宿」の実施率（「はい」の比率、以下同）は21.7%。「補習や受験対策のための勉強合宿」の実施率は26.7%。いずれも、普通科Bグループの実施率をもっとも高くなっている。

図2-7-2 高校入学時の学習中心のオリエンテーション合宿の実施率【校長調査】



注) 「はい」の%。

図2-7-3 補習や受験対策のための勉強合宿の実施率【校長調査】



注) 「はい」の%。

校長に、宿泊を伴う学習中心の合宿を実施しているかどうかをたずねたところ、「高校入学時の学習中心のオリエンテーション合宿」の実施率（「はい」の比率、以下同）は21.7%であった（図2-7-2）。学校種別に実施率をみると、普通科Bグループにおける実施率が

30.8%と相対的に高い。

また、「補習や受験対策のための勉強合宿」の実施率は26.7%であった。学校種別に実施率をみると、こちらも、普通科Bグループにおける実施率が39.9%ともっとも高くなっていることがわかる（図2-7-3）。

## 第8節 研究指定

校長に、現在受けている研究指定の名称を記述形式で回答してもらった。その結果を分類したところ、「文部科学省の研究指定」については「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」がもっとも多く、「文部科学省以外の研究指定や重点校指定」については「学力向上推進校」がもっとも多かった。

### ■文部科学省の研究指定

名 称	校数
スーパーサイエンスハイスクール（SSH）	27
サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）	17
道徳教育実践研究事業	9
学力向上実践研究推進事業	8
地域産業の担い手育成モデル事業	5
教育課程研究指定事業	5

注）校数が5以上のものを示した。

### ■文部科学省以外の研究指定や重点校指定

名 称	校数
学力向上推進校	43
キャリア教育・進路指導・就職指導推進事業	22
進学指導重点校	17
地域連携・ものづくり人材育成事業	15
特別支援教育推進校	10

注1）校数が10以上のものを示した。

注2）それぞれの名称は異なるが内容が一致すると考えられる指定については統合した結果を示している。